



悠久の歴史ある日本国の 舵取りのバトンタッチ

柴山 佳徳

SHIBAYAMA Yoshinori

総務省総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課長

これまでのキャリアをふりかえって

この悠久の歴史ある国、日本国の舵取りを皆さんに託したいと思います。

人口減少、地方疲弊等、とかく課題ばかりに目がいきますが、良いところに目を向けませんか。世界中で、これほど誇れる要素が豊富な国も、また希有だと思います。

一人一人は小さい存在です。ただ、組織に入ると国の行く末を左右する政策にも携われます。それが国家行政組織です。

行政官の立場から、各省庁や政治家の方々、産業界や学会の方々など、すばらしい人々、尊敬できる人々にお会いできます。いわば、国の縮図の中で、日々、業務に携わることができます。

もし、25年前に戻ることができ、皆さんと同じ立場になり就職活動をする機会を得たら？答えは一つ。国家公務員を目指す、です。理由は？面白いから、です。是非、足を踏み入れてください。お待ちしております！



海底ケーブルの国際会議にて



体力が続くまでやり遂げたい

25年目 国際戦略局国際協力課長

100カ国以上を担当し、アフリカ、南米、アジアと飛び回りました。国際協力・展開のみならず経済安全保障の観点もあり、通信・デジタルの国際プロジェクトの楽しさとともに奥深さを学んだ2年間でした。

22年目 官邸広報室(内閣参事官)

仕事のスピードが各省の100倍速です。目も回りますが経験も100倍に。政策をいかに「スピード感」をもち「タイミング」を外さず「わかりやすく」作り上げることの重要性を学んだ3年間でした。

19年目 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課(調査官)

情報通信・デジタルは経済を牽引すべき分野です。イノベーションを最大限発揮できる制度づくりを模索しました。意見が対立することも多い中、「自分の意思」「絶対に降りない一線」がブレないことの重要性を学んだ2年間でした。

18年目 大臣官房秘書課(課長補佐)

組織は人。これは永遠のテーマ。多くの企業が終身雇用制度がなくなろうとしている昨今、行政はどうあるべきかを国全体で早急に考える必要を感じました。

15年目 岐阜県出向(総合企画部・商工労働部次長)

水と緑あふれる岐阜県に出向する機会を頂きました。職員の方々に助けられ、そしてなんとといっても古田知事に本当にお世話になりました。地方が主役、を実感した3年半でした。

10年目 菅義偉総務副大臣(秘書官)

キャリアの中で至宝の時期。一からすべてを鍛えて直して頂きました。「俺は一分単位で動いているんだ。ついてこい」。見る景色も得られる経験も100年分の価値がありました。

3年目 米国留学

ありがたいことに米国留学の機会を頂きました。学術の探究ということも目的ですが、祖国日本を海外から見る大変貴重な機会となりました。